

●京都こども文化会館

<p>前回検証結果 (平成24年度)</p>	<p>要改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校訪問などの働きかけを強化するとともに、平日の利用促進を図るため、大学のサークル活動等に対しても、積極的に営業活動を実施すべき。 ・アンケートを定期的実施して、利用者ニーズを反映した自主事業を実施することや、平日の開館時間を例えば1～2時間後ろにシフトするなど、大学生等に対する平日夜間の利便性を高め、利用増を図るべき。 ・例えば、ホールが稼働していない時の勤務体制を最小限（夜間のみの勤務など）とするなど、人件費を抑えるべき。 ・京都市内、特に市内中心部のこどもの利用が多くなっている実態から、補完性の原則に鑑みると、府の施設として設置・運営する必要性は小さく、むしろ基礎的自治体である京都市の施設として運営すべきであり、今後のあり方について、京都市と協議することが必要。
<p>対応・改善策 実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・京都市内の大学を訪問し、サークルへのパンフレット配布依頼に加え、学内交響楽団への利用勧奨を行った。また、京都市内の高等学校に対し、人権学習等の課外事業としての利用勧奨を行った。 ・シニア講座を開設している京都SKY大学に対し利用勧奨を行った。 ・イベントの実施時等に施設利用者に対しアンケートを実施した。 ・平成25年度に退任した常務理事の後任を不補充としたほか、平成26年4月に期間満了となった嘱託職員の後任採用を見送るなど、人件費の削減を実施した。
<p>取組の成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇高等学校の人権学習の新規利用を確保した。 ◇前回検証を行った平成24年度と比較し、平成26年度は、人件費が約24%減少した。
<p>なお残る課題・ 問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆営業活動等の取組が、利用者数・利用料金収入・稼働率の改善につながっていない。 ◆施設設置後33年経過しており、建物・設備の老朽化が進行。
<p>府民サービス等 改革検討委員会 による改善意見 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> □府・市協調の象徴的意味は残っているが、近隣に類似の施設もあり、施設の必要性は低下しているのではないか。 □求められる、こどものための施設の在り方が変化してきており、施設の位置づけや果たすべき役割を見直す時期にきているのではないか。 □勤務体制の見直しにより、効率的な運営体制となったことは評価できるが、利用者増加に対する取組は十分と言えず、より積極的な営業活動や利用促進の工夫が必要ではないか。

京都府の検証結果及び対応方向

見直し

<見直し方策>

- ◎利用者数・稼働率の改善には、平日利用の促進が重要であるが、営業活動や利用者ニーズの分析などが十分とは言えないため、近年、増加傾向にあるバリエ利用について営業強化するとともに、積極的な大学等への利用促進やマーケティング分析によるニーズの掘起しが必要。
- ◎施設の利用実態や代替施設の存在及び施設の老朽化を踏まえ、設置目的や必要性について改めて整理を行うとともに、引き続き、今後の施設のあり方について京都市と協議を進めること。

<今後の対応>

- 利用者数、稼働率の改善のため、引き続き学校訪問等を行い、一層の営業強化を図るとともに、ホームページ上での空き状況検索や予約の実施など、利便性の向上に努める。
- 子ども向けの事業を実施している団体に働きかけ、共催事業も含めた新たな事業展開を検討するなど、利用拡大に努める。
- 今後の施設のあり方について、引き続き京都市と協議を進める。